

練馬区高齢者基礎調査 報告書

【概要版】



平成 23 年（2011 年）3 月

★ 練 馬 区

目 次

調査対象.....	1
1. 回答者属性.....	2
2. 日常生活の状況.....	2
3. 社会参加.....	3
4. 健康・医療（介護と医療の連携）.....	5
5. 介護予防.....	6
6. 高齢者相談センター（地域包括支援センター）.....	7
7. 認知症.....	8
8. 高齢期の住まい.....	9
9. 介護保険施設.....	10
10. 高齢者の見守り.....	11
11. 介護保険サービスの利用状況.....	12
12. 家族介護者の状況.....	13
13. 特別養護老人ホーム入所待機者調査.....	14
14. 日常生活圏域ニーズ調査.....	16
15. 介護サービス事業所調査.....	17



調査対象

※各調査の調査対象者は、住民基本台帳から無作為抽出した。(⑤、⑦を除く)

※無作為抽出は、調査間での対象者の重複を避け、所定の人数を抽出した。

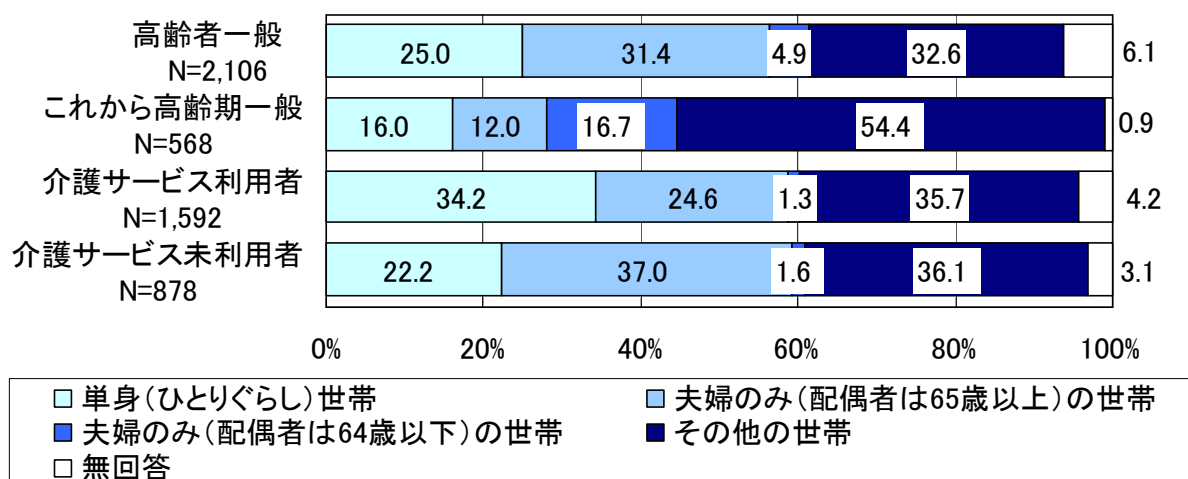
①高齢者一般調査 【高齢者一般】 【介護予防事業利用者】 【介護予防事業未利用者】	【高齢者一般】 介護保険の認定を受けている方を含む 65 歳以上の方から無作為に 3,000 人を抽出した。 【介護予防事業利用者】 2次予防事業対象者の認定を受けており、かつ平成 22 年 5～8 月までに介護予防事業を利用した方全員(144 人)を対象とした。 【介護予防事業未利用者】 2次予防事業対象者の認定を受けており、かつ介護予防事業を利用していない方から無作為に 400 人を抽出した。
②これから高齢期を迎える方の調査 【これから高齢期一般】 【介護サービス利用者】	【これから高齢期一般】 介護保険の認定を受けていない 55～64 歳の方から無作為に 1,000 人を抽出した。 【介護サービス利用者】 介護保険の認定を受けており、かつ介護サービスを利用している 55～64 歳の方から無作為に 200 人を抽出した。
③介護サービス利用者調査	介護保険の認定を受けており、かつ介護サービスを利用している 65 歳以上の方から無作為に 3,000 人を抽出した。
④介護サービス未利用者調査	介護保険の認定を受けているが、介護サービスを利用していない 65 歳以上の方から無作為に 1,500 人を抽出した。
⑤特別養護老人ホーム入所待機者調査	平成 22 年 12 月現在、特別養護老人ホーム入所待機中の方全員(2,982 人)を対象とした。
⑥日常生活圏域ニーズ調査	練馬地区から介護保険の認定を受けている方を含む 65 歳以上の方から無作為に 800 人を抽出した。
⑦介護サービス事業所調査	平成 23 年 1 月現在、介護サービスを提供している区内の 718 事業所を対象とした。 居宅介護支援(172)、訪問介護(162) 訪問入浴介護(9)、訪問看護(32) 訪問リハビリテーション(8)、通所介護(134) 通所リハビリテーション(11) 特定施設入居者生活介護(34) 福祉用具貸与(20)、福祉用具販売(24) 短期入所生活介護(23)、短期入所療養介護(10) 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)(20) 介護老人保健施設(7) 介護療養型医療施設(5) 認知症対応型通所介護(17) 認知症対応型共同生活介護(グループホーム)(21) 小規模多機能型居宅介護(7) 夜間対応型訪問介護(2)

1. 回答者属性

(1) 世帯構成

ア. 高齢者一般は、「単身（ひとりぐらし）世帯」と「夫婦のみ（配偶者は65歳以上）の世帯」で過半数を占めている。

イ. 「単身（ひとりぐらし）世帯」の割合をくらべると、介護サービス利用者が34.2%と最も多い。



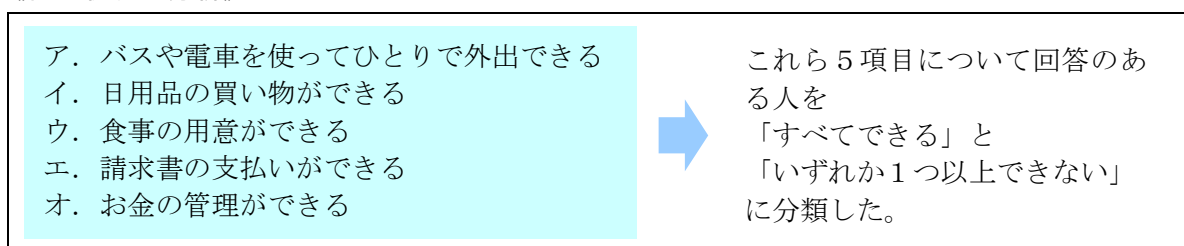
図表1 世帯構成（単数回答）

2. 日常生活の状況

(1) 日常生活での自立状況

ア. 高齢者一般の日常生活における自立状況については、8割以上の方が「ア～オのすべてができる」と回答しており、日常生活において自立していることがわかる。

《自立状況の分析》



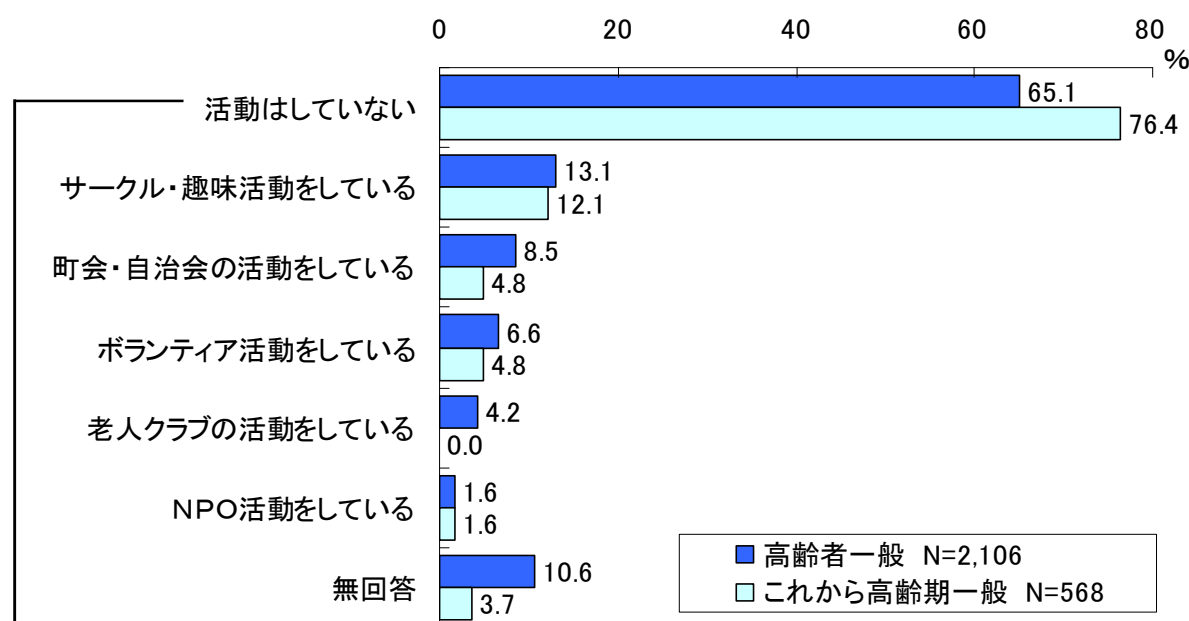
図表2 日常生活での自立の状況（単数回答）

3. 社会参加

(1) 地域活動への参加の状況・きっかけ

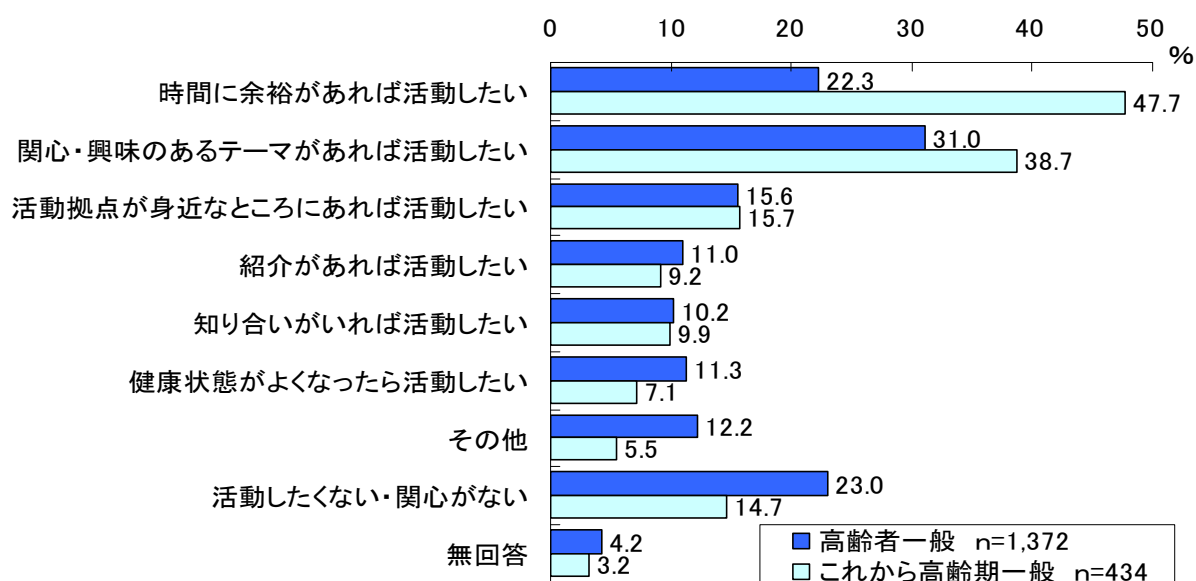
ア. 町会・自治会やボランティア・NPOなどの地域活動への参加状況をみると、高齢者一般、これから高齢期一般ともに「活動はしていない」という回答が多い。

イ. 活動に参加していない人が参加するきっかけは、「時間に余裕があれば活動したい」「関心・興味のあるテーマがあれば活動したい」が上位にあげられている。



図表3 地域活動の参加の状況 (複数回答)

活動はしていない：高齢者一般 1,372 人 これから高齢期一般 434 人
【地域活動への参加のきっかけ】

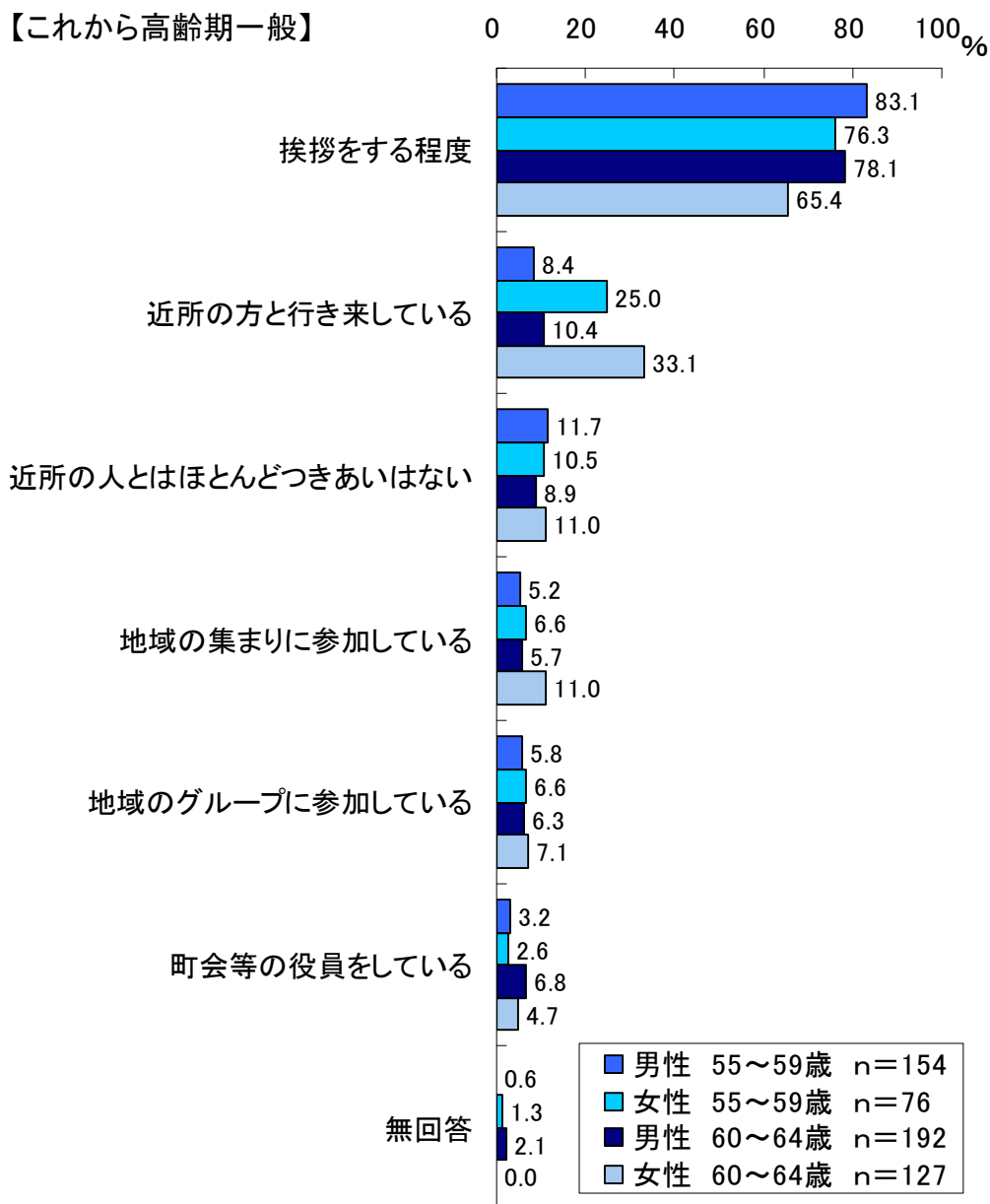


図表4 地域活動への参加のきっかけ (複数回答)

(2) これから高齢期を迎える方の地域との関わり

ア.これから高齢期一般の地域との関わりをみると、「近所の人とはほとんどつきあいはない」が、男女・年齢問わず、1割程度みられる。

イ.「近所の方と行き来している」は、女性での割合が高く、特に60～64歳での割合が高くなっている。一方、男性は、55～59歳、60～64歳ともに1割程度となっている。



図表5 男女・年齢区分×地域との関わり／これから高齢期一般（複数回答）

4. 健康・医療（介護と医療の連携）

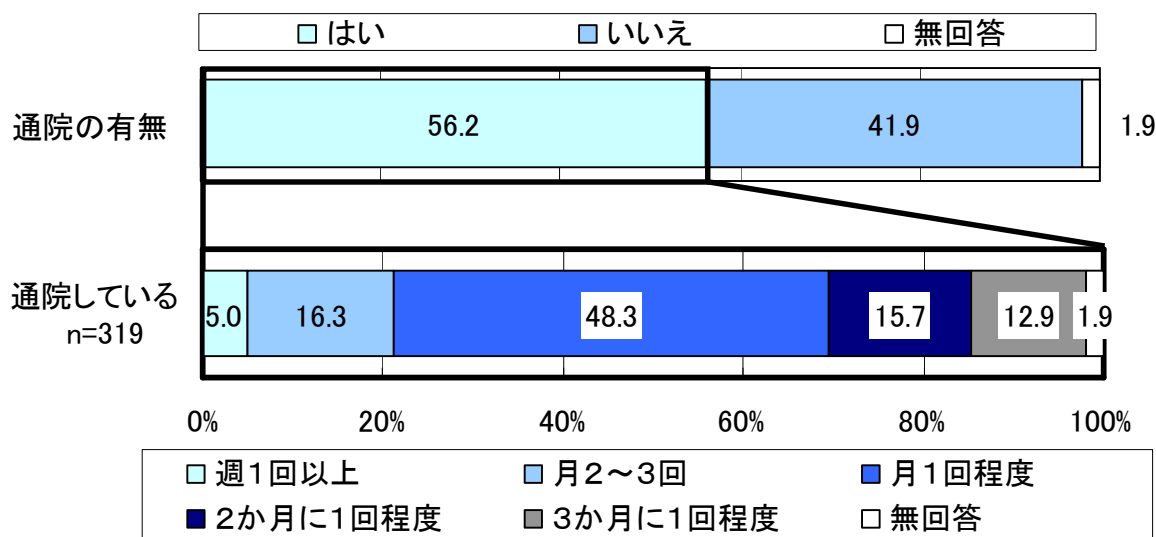
（１）通院・往診等の頻度

ア.これから高齢期一般では、病院・医院（診療所、クリニック）に通院している人は、6割弱となっている。

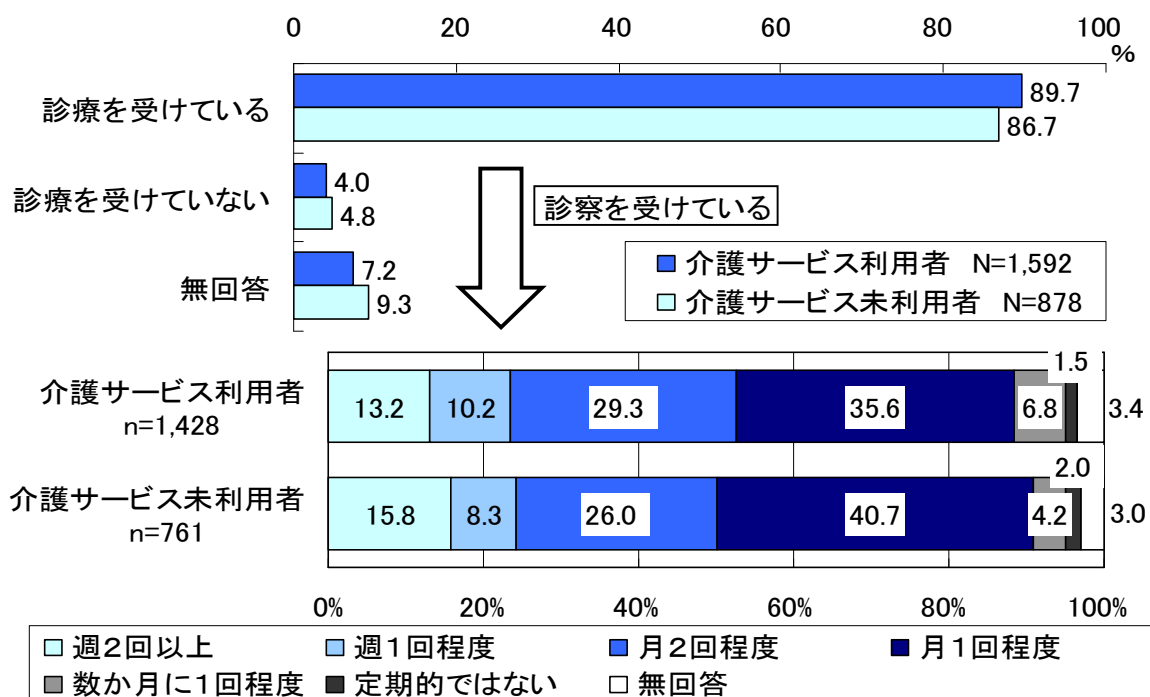
イ.介護サービス利用者、介護サービス未利用者では、診察を受けている人（通院または往診により病院・医院を利用）が、それぞれ9割弱となっている。

ウ.通院・往診の頻度をみると、これから高齢期一般、介護サービス利用者、介護サービス未利用者のいずれも、「月1回程度」が最も多い。

【これから高齢期一般（N=568）】



図表6 通院の状況及び通院・往診等の頻度／これから高齢期一般（単数回答）

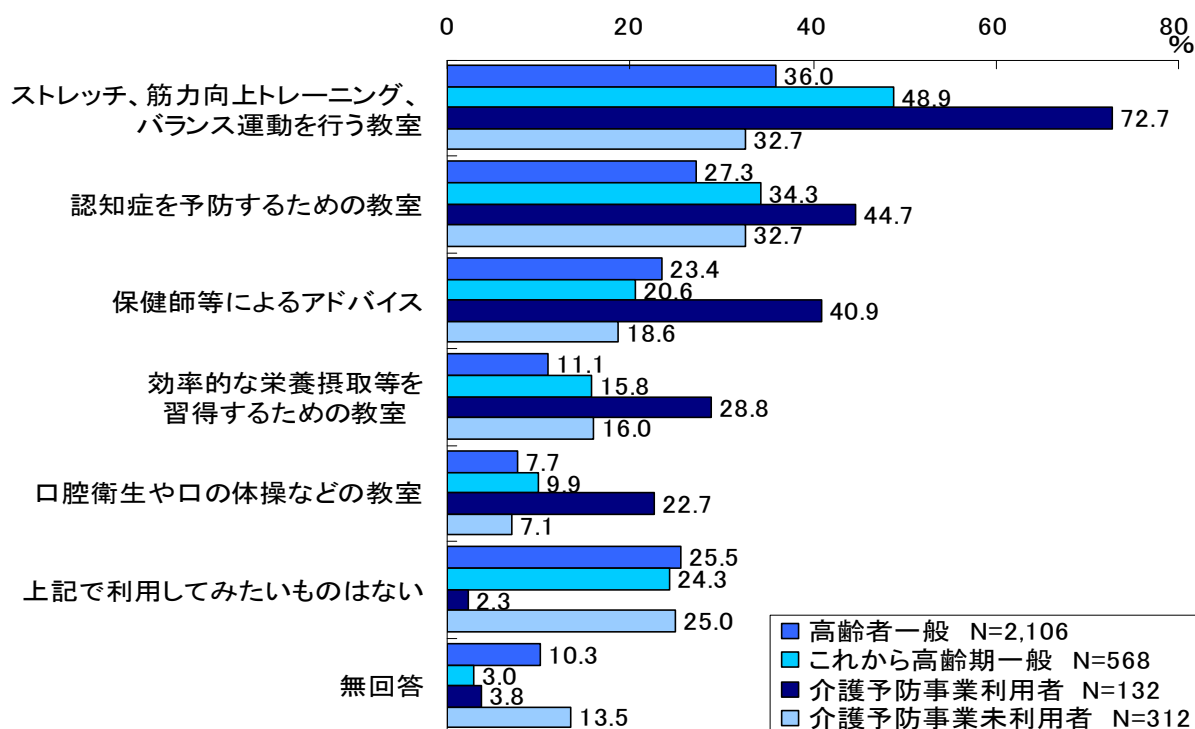


図表7 通院・往診の状況及び通院・往診等の頻度（単数回答）

5. 介護予防

(1) 介護予防事業の利用意向

ア. 各種介護予防事業の利用意向は、いずれも「ストレッチ、筋力向上トレーニング、バランス運動を行う教室」の割合が高く、特に介護予防事業利用者で72.7%と高くなっている。

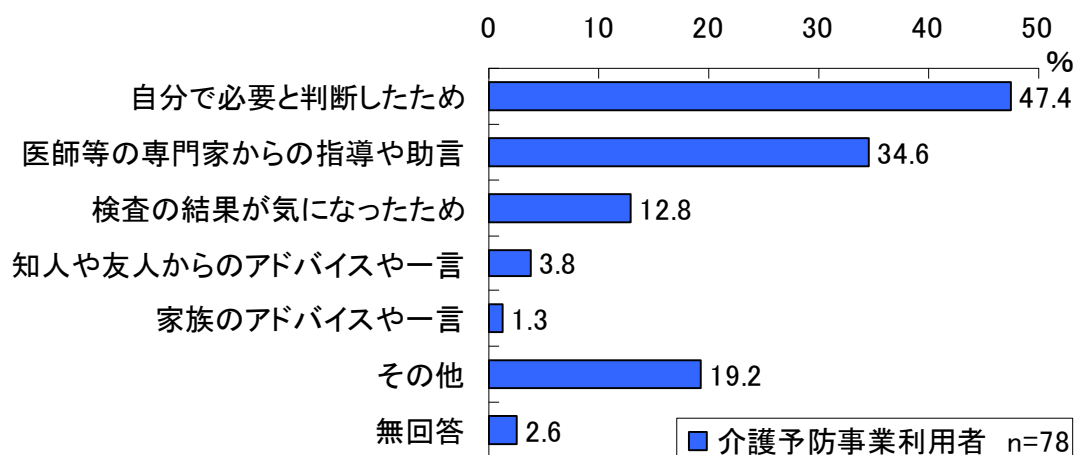


図表 8 介護予防のサービスの利用意向 (複数回答)

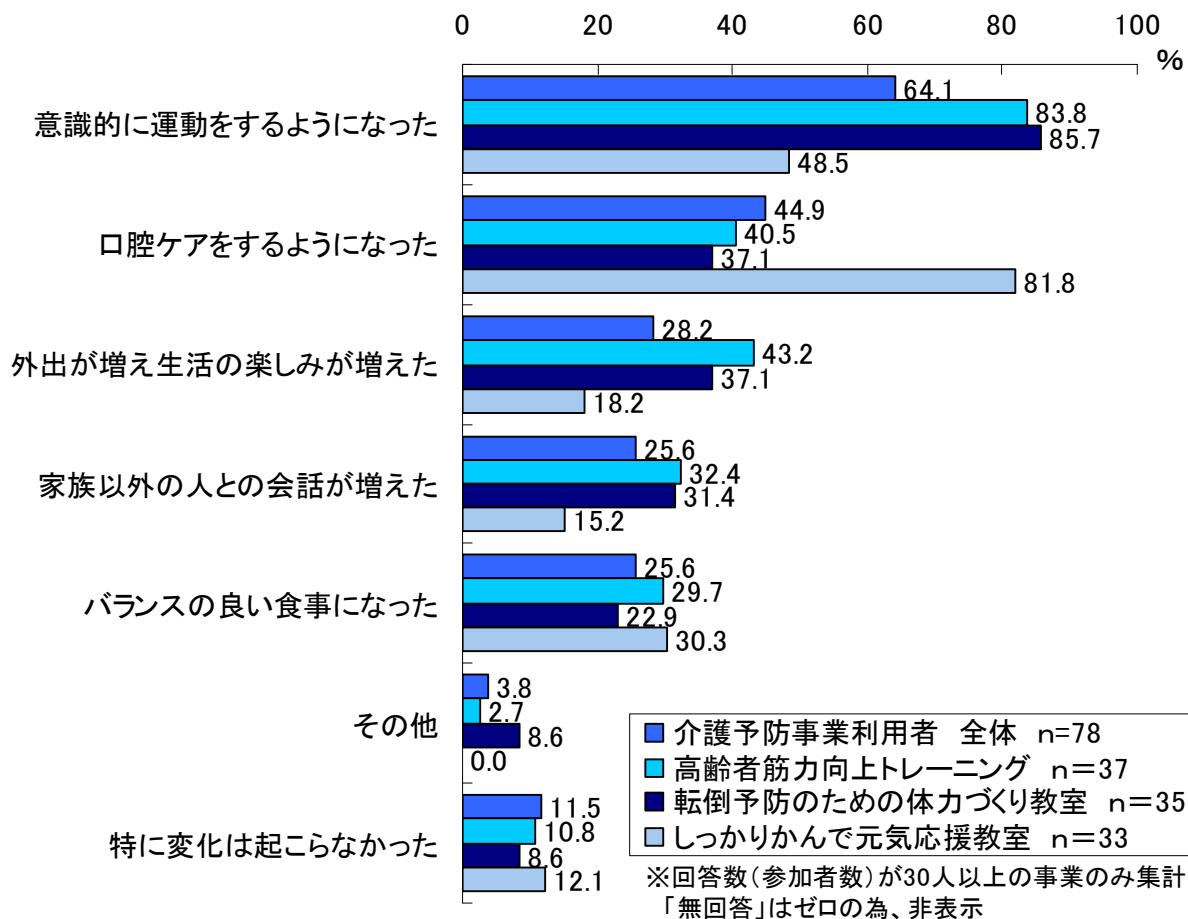
(2) 介護予防事業の利用のきっかけ・利用後の変化

ア. 「自分で必要と判断したため」「医師等の専門家からの指導や助言」をきっかけとした事業への参加が多くなっている。

イ. 介護予防事業利用者の6割強の方が「意識的に運動をするようになった」と回答している。



図表 9 介護予防事業利用のきっかけ (複数回答)

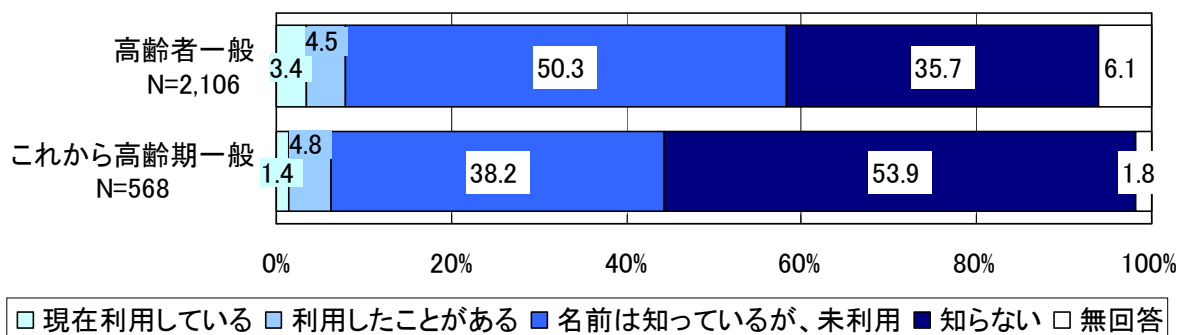


図表 10 介護予防事業別利用後の変化 (複数回答)

6. 高齢者相談センター（地域包括支援センター）

(1) 高齢者相談センターの認知度

ア. 高齢者相談センター(※)を「知らない」と回答した割合は、高齢者一般で 35.7%、これから高齢期一般で 53.9%となっている。



図表 11 高齢者相談センターの認知度 (単数回答)

※高齢者相談センター：練馬区における地域包括支援センターの呼称のこと。
高齢者相談センターは、総合福祉事務所に設置された本所（4 か所）と、支所（22 か所）により運営されている。

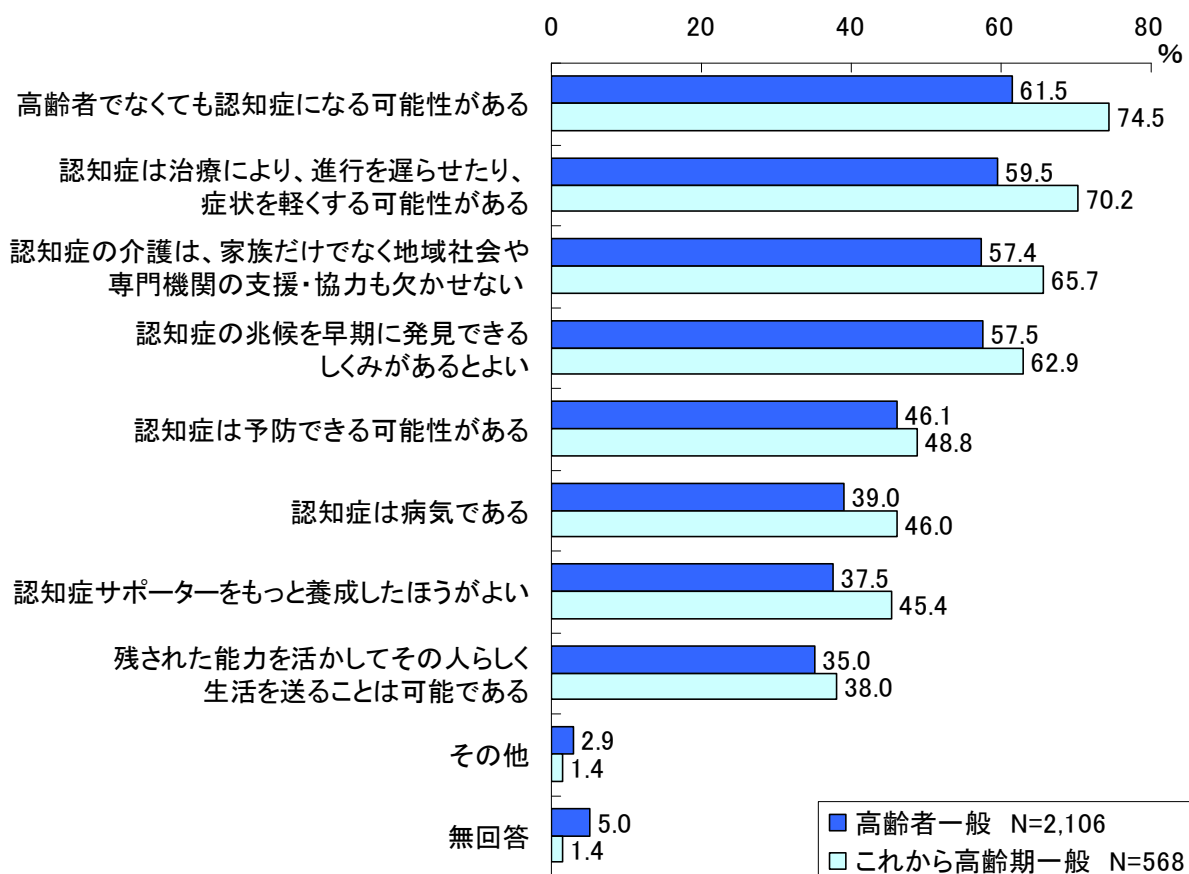
7. 認知症

(1) 認知症に対するイメージ

ア. 認知症に対するイメージについては、「高齢者でなくても認知症になる可能性がある」「認知症は治療により、進行を遅らせたり、症状を軽くする可能性がある」の割合が高く、それぞれ、高齢者一般で6割程度、これから高齢期一般で7割強となっている。

イ. 次いで「認知症の介護は、家族だけでなく地域社会や専門機関の支援・協力も欠かせない」「認知症の兆候を早期に発見できるしくみがあるとよい」の割合が高く、高齢者一般の6割弱、これから高齢期一般の6割強となっている。

ウ. また、多くの項目について、高齢者一般よりもこれから高齢期一般の方が1割程度高い割合となっている。



図表 12 認知症に対するイメージ (複数回答)

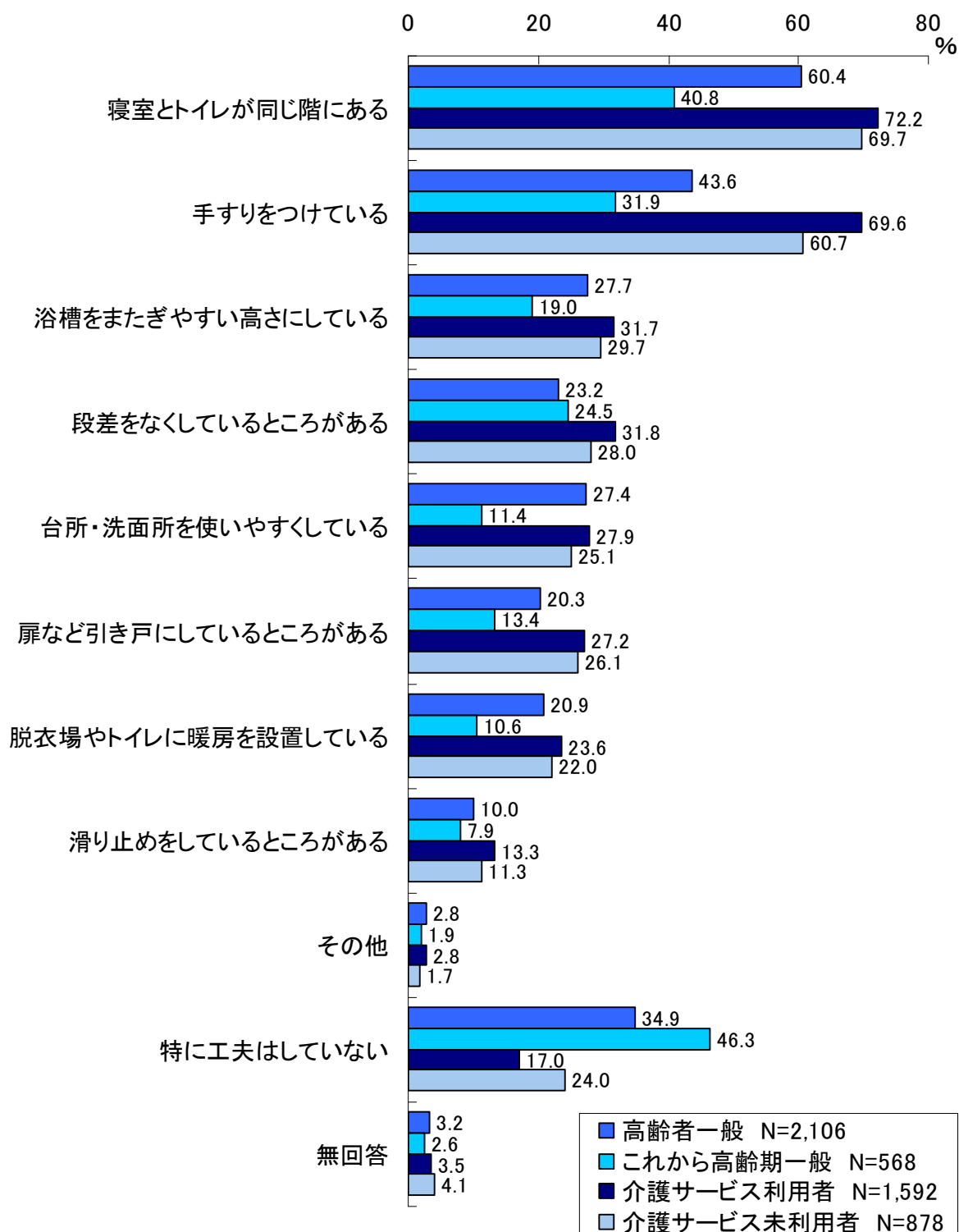


8. 高齢期の住まい

(1) 高齢期を過ごすための住まいの工夫

ア. 高齢期を過ごすための住まいの工夫として、「寝室とトイレが同じ階にある」「手すりをつけている」の割合が高く、特に、介護サービス利用者、介護サービス未利用者では6～7割となっている。

イ. これから高齢期一般では、「特に工夫はしていない」が5割弱となっている。

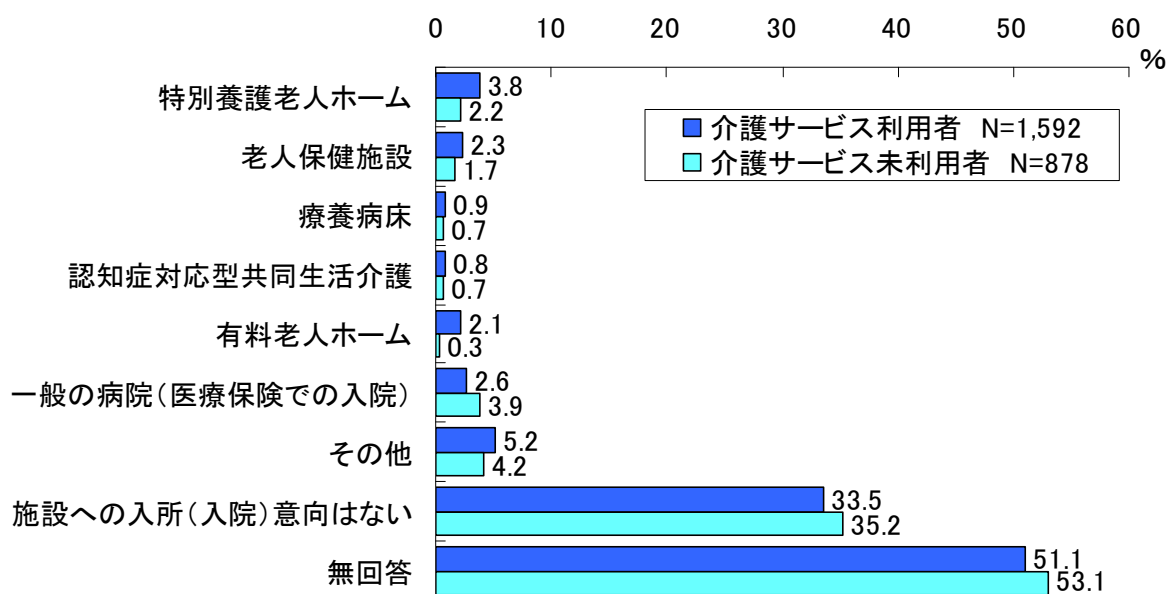


図表 13 高齢期を過ごすための住まいの工夫 (複数回答)

9. 介護保険施設

(1) 施設等の申込み状況

ア. 介護サービス利用者、介護サービス未利用者ともに3割強が「施設への入所（入院）意向はない」と回答している。

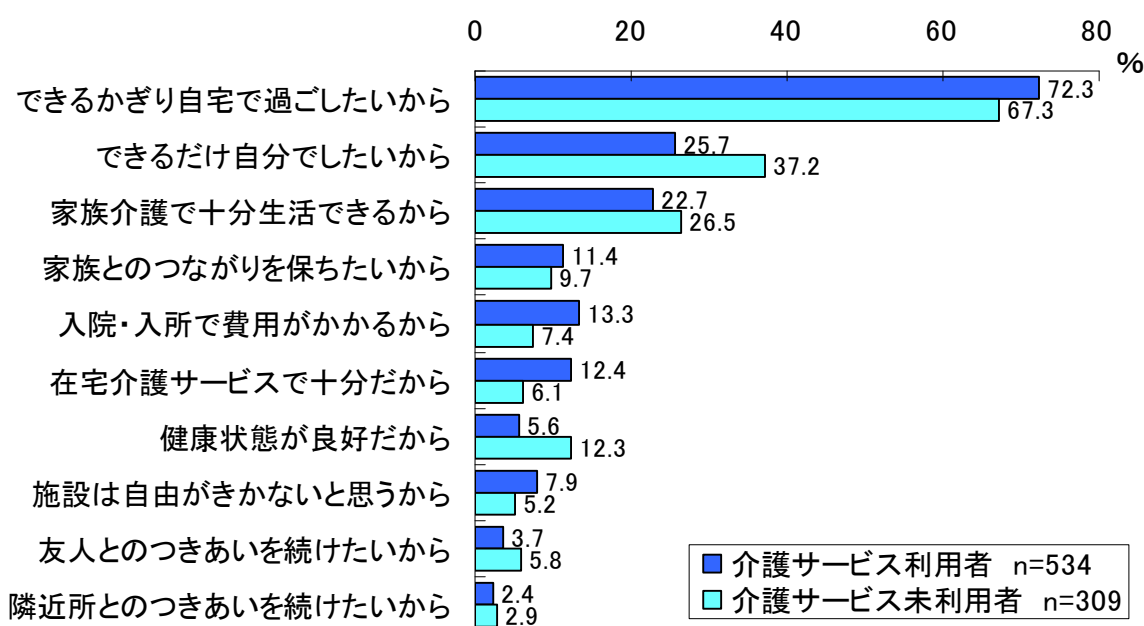


図表 14 介護保険施設等の申込み状況 (複数回答)

(2) 施設等の入所を希望しない理由

ア. 施設等の入所を希望しない理由をみると、介護サービス利用者、介護サービス未利用者とも「できるかぎり自宅で過ごしたいから」が7割程度である。

イ. 次いで「できるだけ自分でしたいから」と回答する割合が多いが、特に介護サービス未利用者は介護サービス利用者よりも10ポイント以上高い。



図表 15 施設等の入所を希望しない理由 (複数回答)

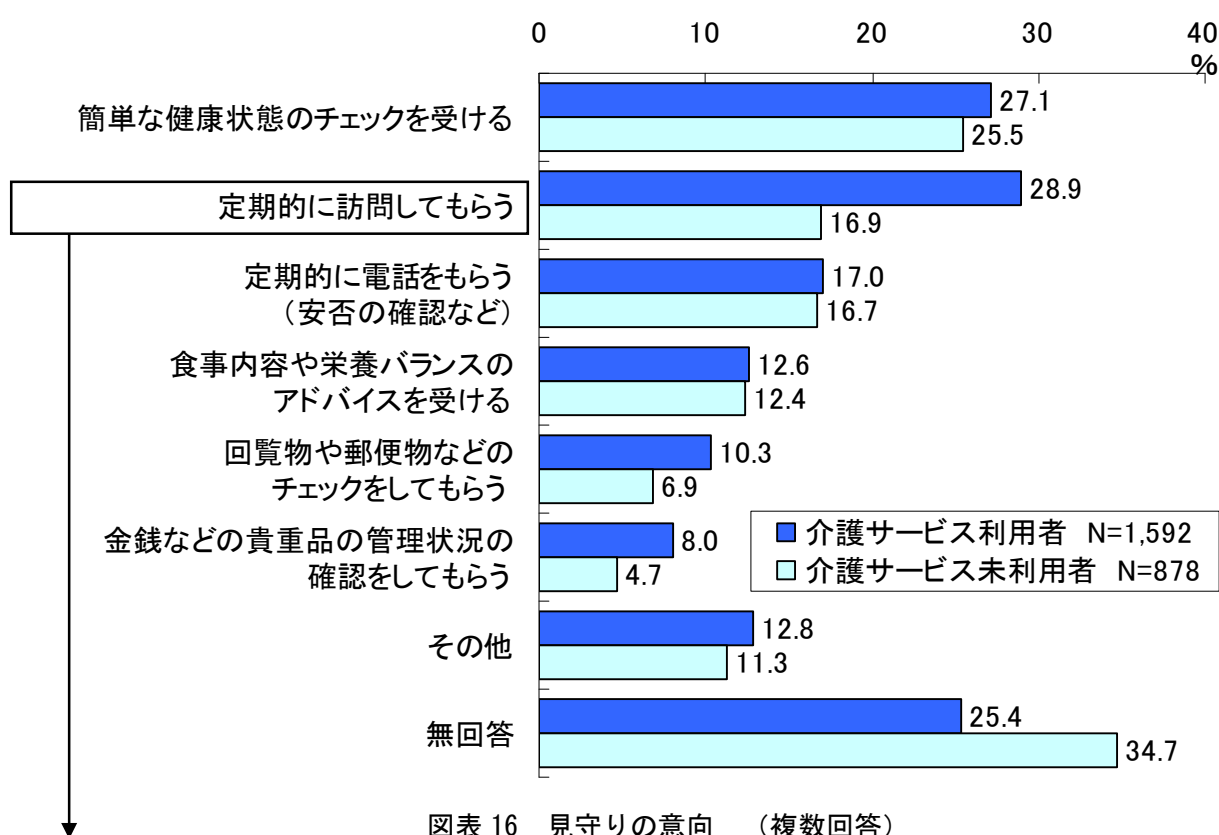
10. 高齢者の見守り

(1) 見守りに対する意向

ア. 見守りに対する意向は、介護サービス未利用者よりも介護サービス利用者の方が高い割合となっている。

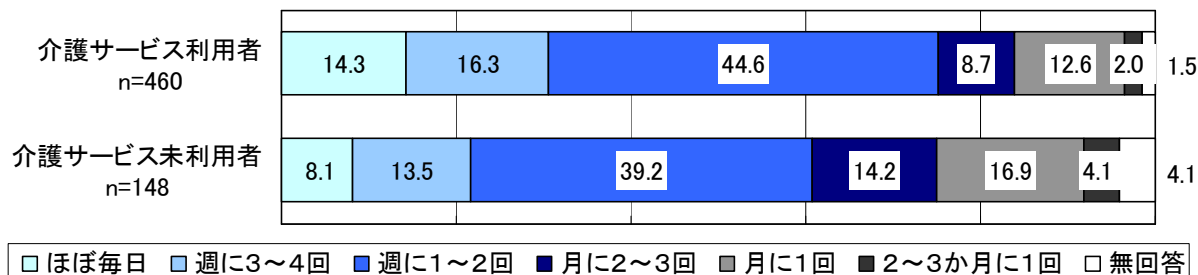
イ. 介護サービス利用者、介護サービス未利用者とも「簡単な健康状態のチェックを受ける」「定期的に訪問してもらう」「定期的に電話をもらう（安否の確認など）」の割合が高くなっている。

ウ. 「定期的に訪問してもらう」を希望する人が希望する頻度をみると、「週に1～2回」が最も多く、介護サービス利用者で44.6%、介護サービス未利用者で39.2%となっている。



図表 16 見守りの意向（複数回答）

【「定期的に訪問してもらう」訪問の頻度】



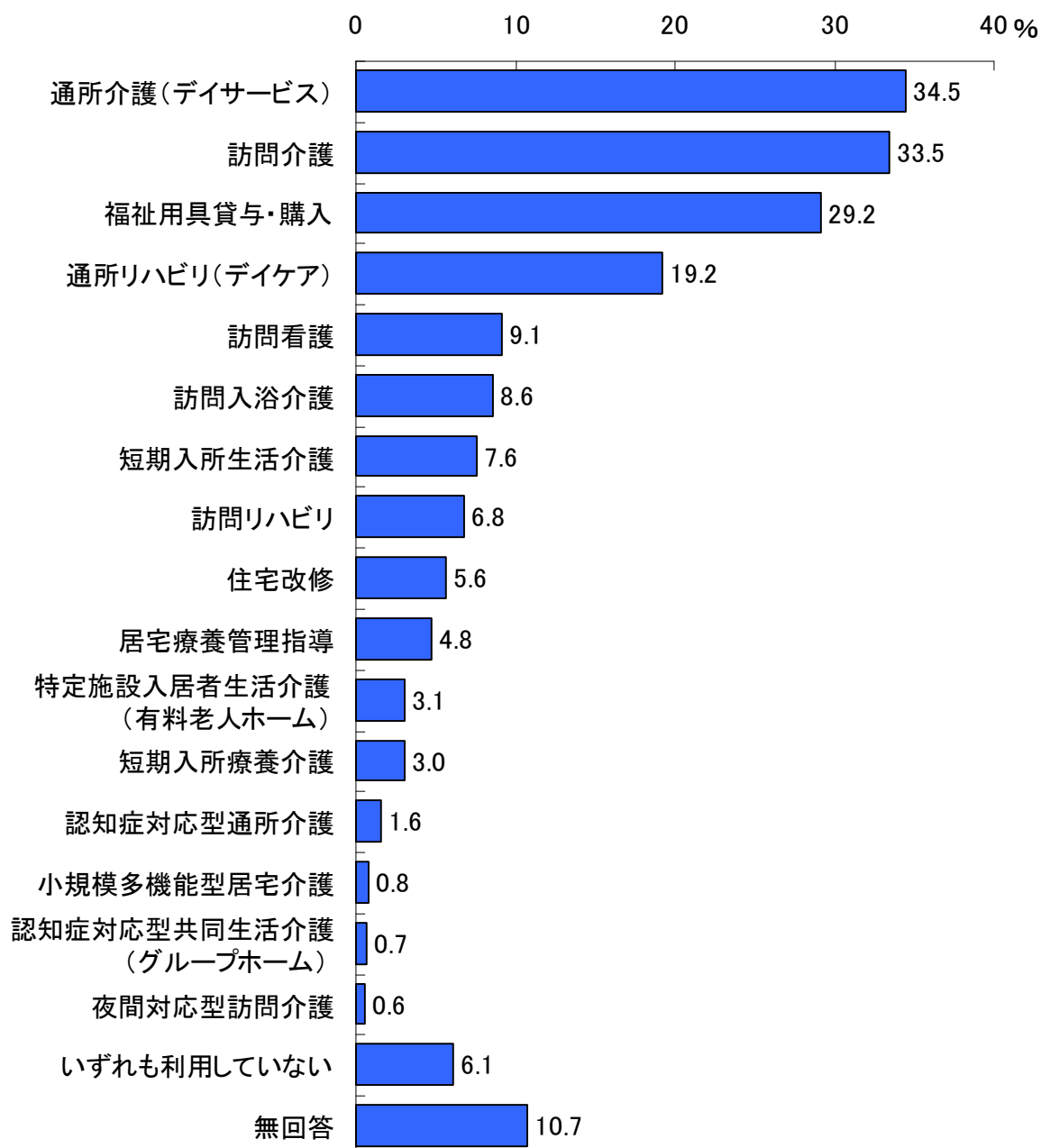
図表 17 定期訪問の頻度（単数回答）

11. 介護保険サービスの利用状況

(1) 介護保険サービスの利用状況

ア. 平成22年9月～11月の間に利用した介護保険サービスをみると、「通所介護」「訪問介護」「福祉用具貸与・購入」の利用者が多くなっている。

【介護サービス利用者（N=1,592）】

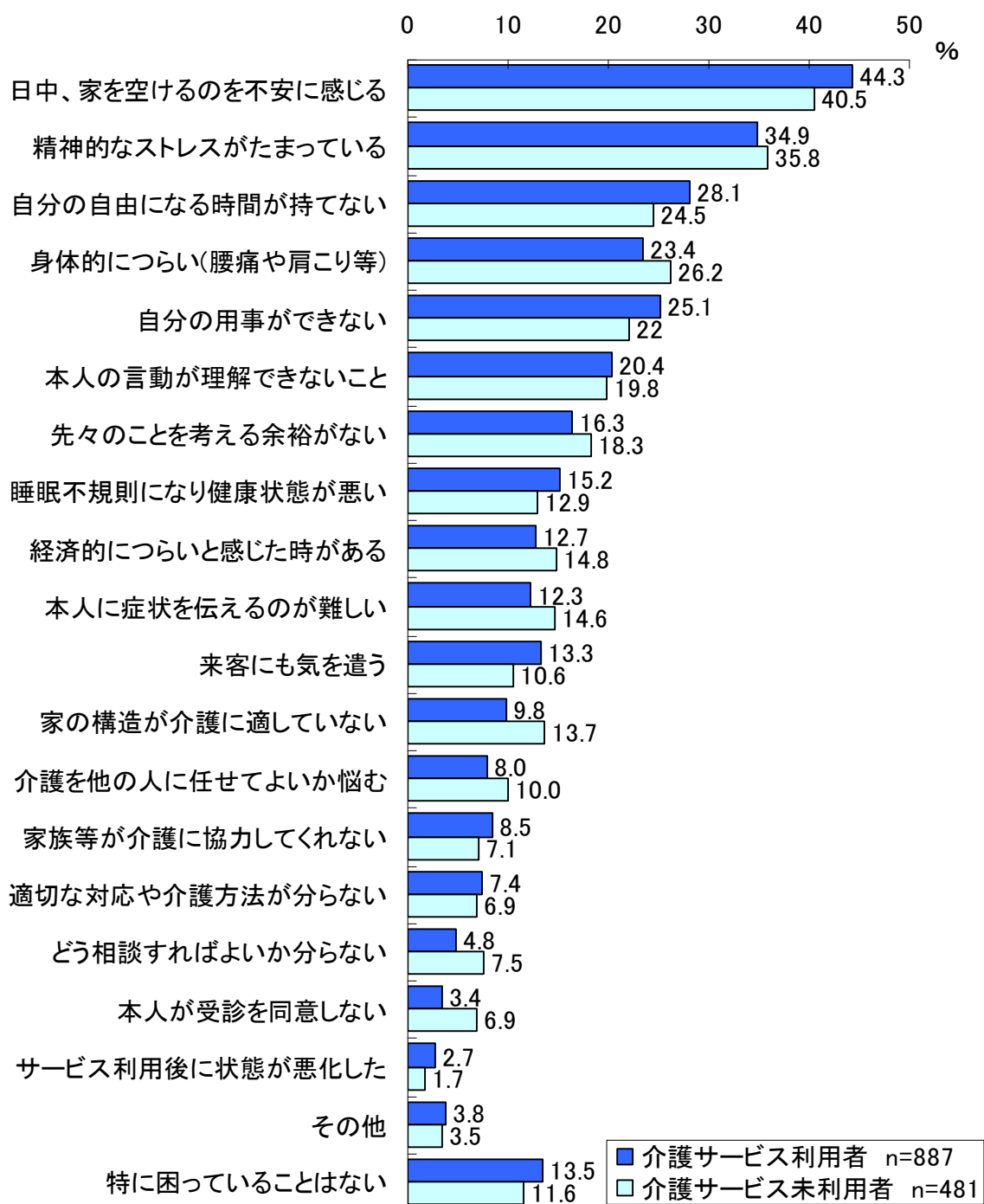


図表 18 介護サービスの利用状況／介護サービス利用者（複数回答）

12. 家族介護者の状況

(1) 家族介護の負担や困り事（家族介護者が回答）

ア. 在宅介護で家族介護者が困っている・負担に感じている事についてみると、介護サービス利用者、介護サービス未利用者とも、「日中、家を空けるのを不安に感じる」「精神的なストレスがたまっている」の割合が高くなっている。



図表 19 主たる家族介護者からみた困り事（複数回答）

13. 特別養護老人ホーム入所待機者調査

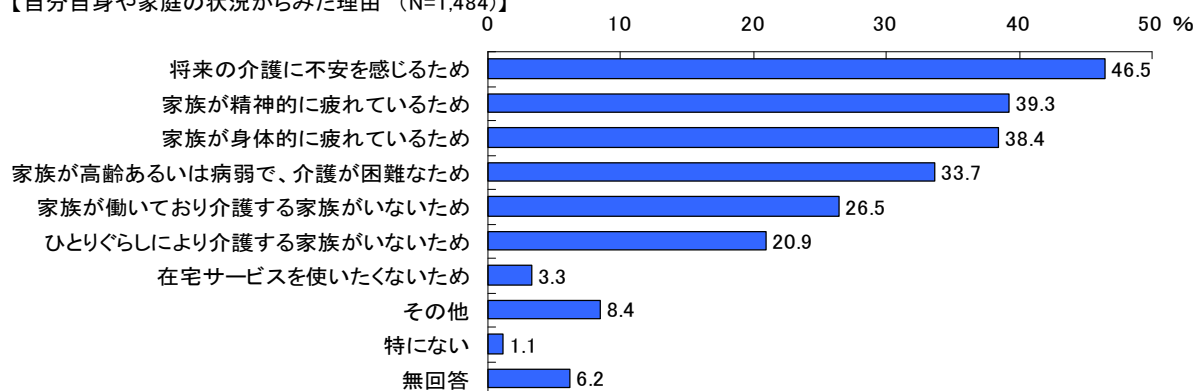
(1) 特別養護老人ホームを申し込んだ理由

ア. 自分自身や家庭の状況からみた理由は、「将来の介護に不安を感じるため」が5割弱と最も多く、次いで「家族が精神的に疲れているため」「家族が身体的に疲れているため」がともに4割弱となっている。

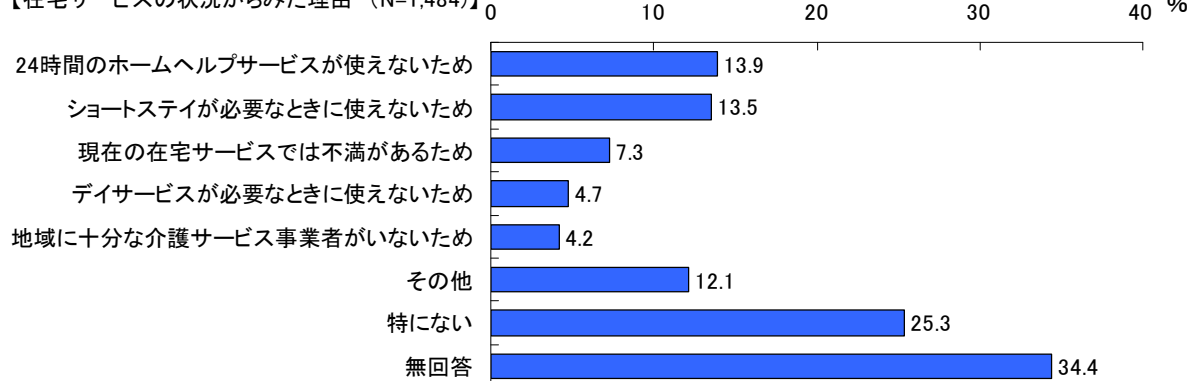
イ. 在宅サービスの状況からみた理由は、「24時間のホームヘルプサービスが必要なときに使えないため」「ショートステイが必要なときに使えないため」がともに1割強となっている。

ウ. 特別養護老人ホームの特徴からみた理由は、「24時間介護が受けられるため」が8割と最も多く、次いで「専門的な介護が受けられるため」が6割となっている。

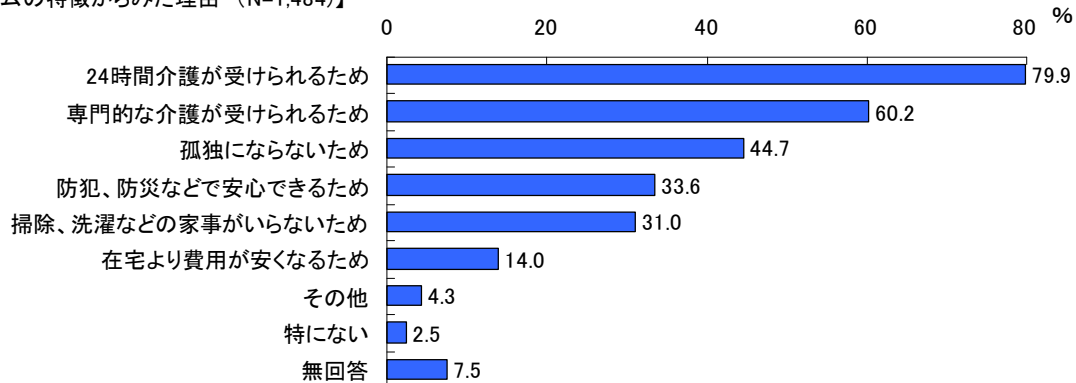
【自分自身や家庭の状況からみた理由 (N=1,484)】



【在宅サービスの状況からみた理由 (N=1,484)】



【特養ホームの特徴からみた理由 (N=1,484)】

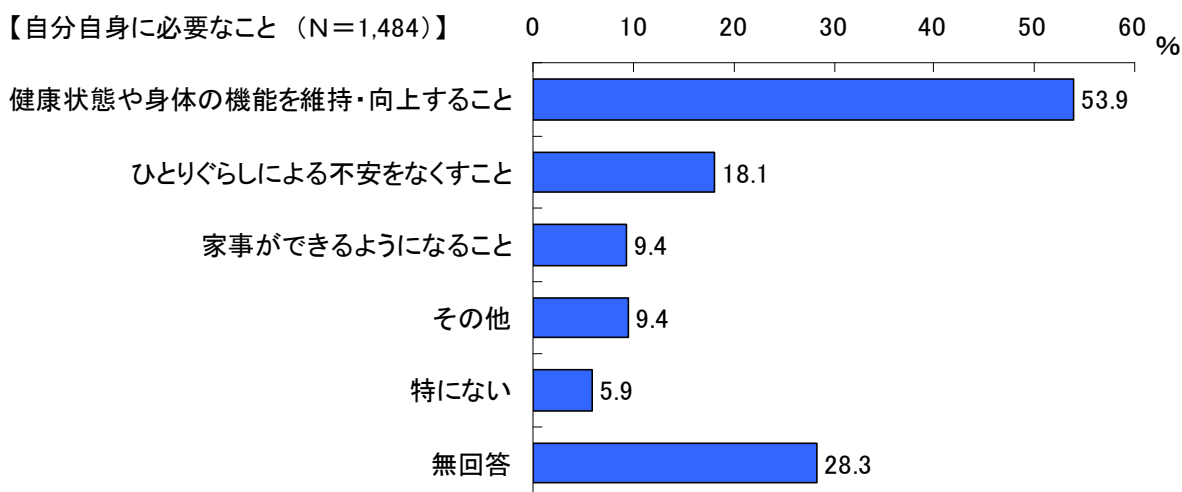


図表 20 特別養護老人ホームを申し込んだ理由／3種 (複数回答)

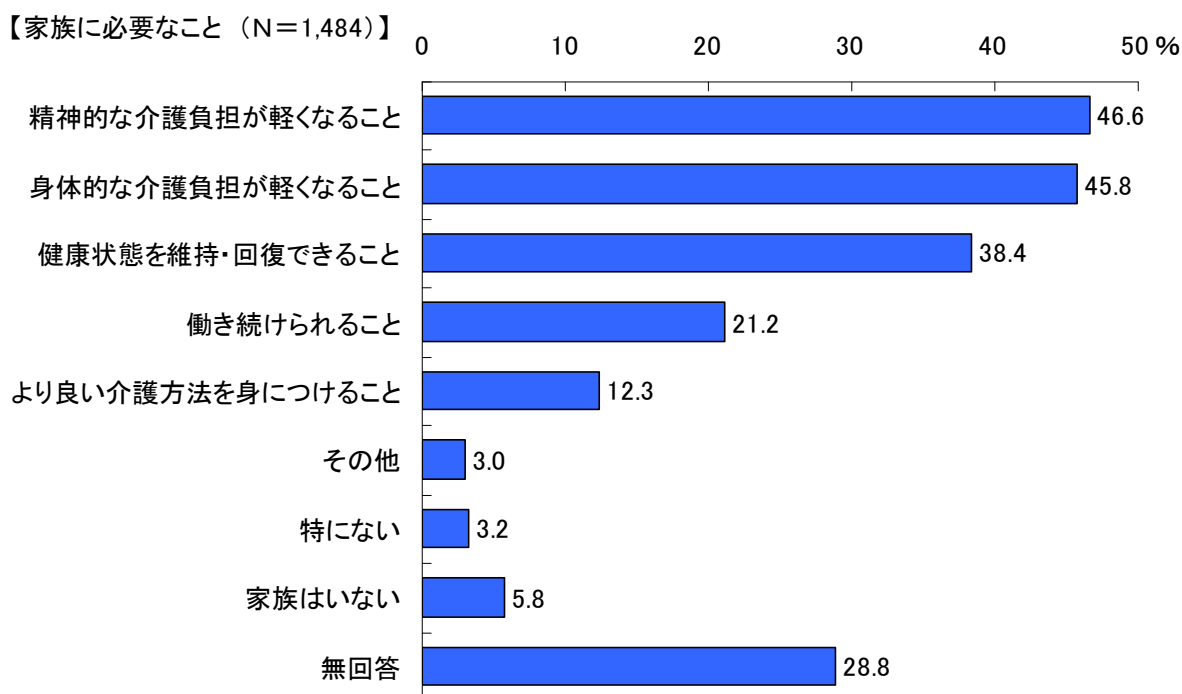
（２）在宅生活を続けるために必要なこと

ア．特別養護老人ホームへ入所するまでの間、在宅生活を続けるために『自分自身に必要なこと』は、「健康状態や身体の機能を維持・向上すること」が５割強と最も多くなっている。

イ．『家族に必要なこと』は、「精神的な介護負担が軽くなること」が５割弱、「身体的な介護負担が軽くなること」が５割弱と最も多くなっている。次いで「健康状態を維持・回復できること」が４割弱となっている。



図表 21 在宅生活を続けるために必要なこと／自分自身に必要なこと（複数回答）



図表 22 在宅生活を続けるために必要なこと／家族に必要なこと（複数回答）

14. 日常生活圏域ニーズ調査

- 練馬区では、第5期介護保険事業計画の策定にあたり、高齢者のニーズをよりの確に把握するため有効な手法として国が推奨している「日常生活圏域ニーズ調査」を実施しました。
- 日常生活圏域内の高齢者の要介護リスク等の指標を把握・集計することで、ニーズを客観的に把握し、当該圏域ごとに必要なサービスの種類・量を適切に算定するための基礎資料とします。
- 今回の調査では、練馬区の4つの日常生活圏域のうち、「練馬」地区をモデル圏域として設定し、実施しました。

(1) 運動機能

ア. 運動機能については、以下の設問の①～③で「いいえ」と回答した方を1点、④、⑤で「はい」と回答した方を1点として合計し、3点以上をリスク該当者とした。

設 問		日常生活圏域ニーズ調査 (n=634)		
		はい	いいえ	不明・無回答
①	階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	54.1	39.3	6.6
②	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	68.8	25.7	5.5
③	15分位続けて歩いていますか	77.1	17.5	5.4
④	この1年間に転んだことがありますか	26.0	70.3	3.6
⑤	転倒に対する不安は大きいですか	46.5	46.8	6.6

単位：％

地域		回答者数				
			A：判定可能者数			判定不能者
			リスク該当者		非該当者	
			B：人員数	B/A：割合	人員数	
合計	620	546	153	28.0%	393	74
旭丘	31	26	7	26.9%	19	5
向山	43	37	12	32.4%	25	6
小竹町	36	33	6	18.2%	27	3
栄町	13	10	8	80.0%	2	3
桜台	108	92	17	18.5%	75	16
豊玉上	17	16	6	37.5%	10	1
豊玉北	65	57	17	29.8%	40	8
豊玉中	39	36	12	33.3%	24	3
豊玉南	30	27	8	29.6%	19	3
中村	33	31	8	25.8%	23	2
中村北	30	29	8	27.6%	21	1
中村南	25	21	4	19.0%	17	4
貫井	65	55	16	29.1%	39	10
練馬	59	54	16	29.6%	38	5
羽沢	26	22	8	36.4%	14	4

図表 23 運動機能に関するリスク該当者結果

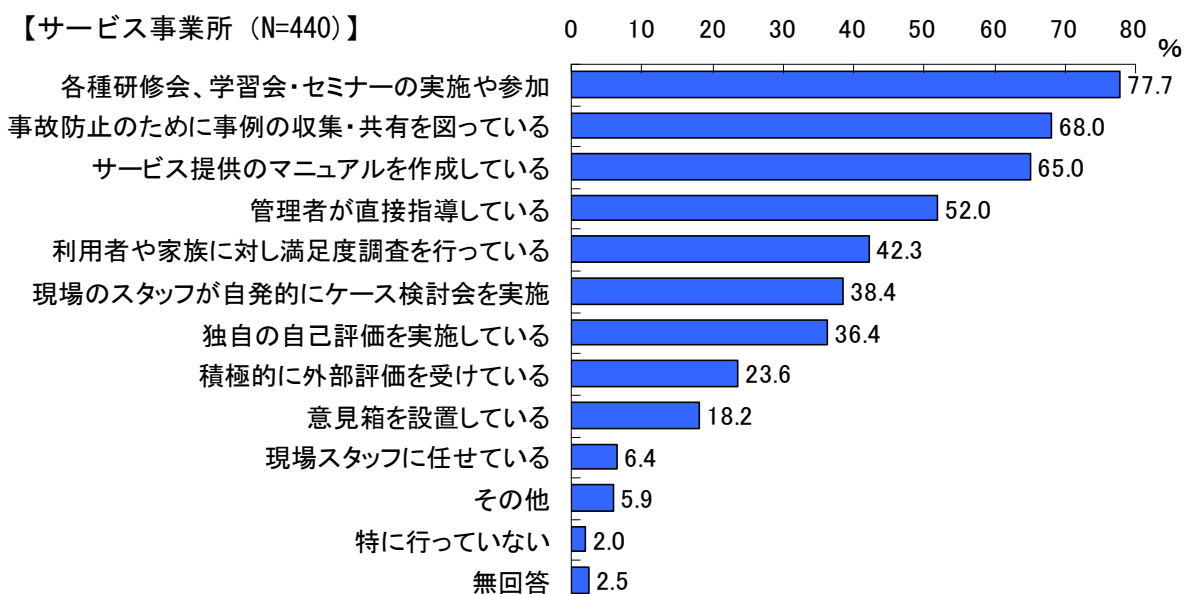
※図表 23 の回答者数合計は、居住地域不明者を除いている。

15. 介護サービス事業所調査

(1) サービスの質の向上の取り組み

ア. サービスの質の向上の取り組みは、「各種研修会、学習会・セミナーの実施や参加」が8割弱と最も多くなっている。

イ. 次いで「事故防止のためにヒヤリ・ハット事例の収集・共有を図っている」「サービス提供のマニュアルを作成している」がともに7割弱となっている。

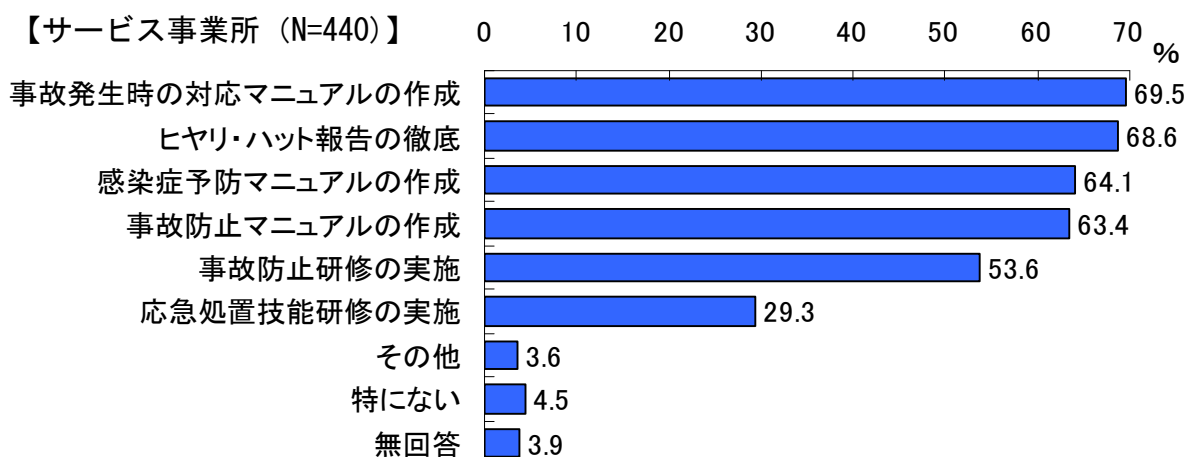


図表 24 サービスの質の向上の取り組み（複数回答）

(2) 事故防止の取り組み

ア. 事故防止の取り組みは、「事故発生時の対応マニュアルの作成」と「ヒヤリ・ハット報告の徹底」がそれぞれ7割弱となっている。

イ. 次いで「感染症予防マニュアルの作成」「事故防止マニュアルの作成」がそれぞれ6割強となっている。



図表 25 事故防止の取り組み（複数回答）



練馬区高齢者基礎調査報告書 【概要版】

平成 23 年（2011 年）3 月発行

編集・発行 練馬区 健康福祉事業本部 福祉部 高齢社会対策課
〒176-8501 東京都練馬区豊玉北 6-12-1
電話：03-5984-4584（直通）

調査機関 株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所
〒113-0033 東京都文京区本郷 3-23-1
クロセビア本郷 6 階
電話：03-5803-9933（代）

※再生紙を使用しています